

# 働いてよかったと思える会社に 持続的成長へ従業員満足も重視



▲横田和彦社長

食肉の加工や食肉製品・加工食品の製造、輸出入を行う食肉業界のトータルサプライヤー。「食を通して人を幸せにするグローバルな生活関連企業を目指す」を経営ビジョンに掲げる。

食文化の変遷、働く女性の増加や少子高齢化、健康志向や安全・安心意識の高まり——時代とともに移り変わるニーズに、グループの総合力で応え続ける。

今年4月には、横田和彦社長が就任。前任の中津濱健氏から14歳の若返りとなった新トップのもと、新たな体制がスタートした。

前身のゼンチク入社以来、長く営業畑を歩んできた横田氏。

「お客様との関係強化に尽力し、経営理念の最初に掲げる『スターゼンと取引をしてよかったといわれる会社になろう』を実現するために、グルー

プ全従業員への思いを込めて『スターゼンで働いてよかったと思える会社になろう』という新たな経営理念を加えた」。

企業が持続的に成長し、得意先をはじめとしたステークホルダーへの社会的責任を果たすには、最も身近なステークホルダーである従業員の満足度向上が欠かせないとの認識のもと、従業員が安心して長く働ける環境・制度を整備する。

コロナ渦を契機に企業への帰属意識にも変化を感じるなか、「チームスターゼン」を深掘り、進化させたいと語る。「先の見通しが立ちにくい昨今、皆が一つのチームとしてつながり、それぞれの役割を果たしていくことの大切さを繰り返し説いていきたい」（横田氏）。

トップ交代を機に、組織も刷新。新設した「物流本部」では、ドライバー不足や労務管理の厳格化など厳しさを増す物流事情に対応。500台のトラックを擁するグループ内の各領域にまたがり、全体を俯瞰する立場から業務再構築を図った。全国約20の加工拠点、約50の販売拠点間をつなぎ顧客へ届ける物流網について、長年の間に生まれた無駄を省き効率化。CO2排出削減にもつながる。

「やはり営業一筋だった前社長（中津濱健会長）の薫陶を受けて、今の私がある。生意気を言って叱られることもあるし、親父と息子のような関係」と語る横田社長。こうした関係も念頭に「全国の営業マンたちの目標となるような社長になりたい」と抱負を語る。



▲ハンバーグを製造する本宮工場（福島県）